



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

2023.2.21 環境省ウォータープロジェクト
～水環境の活用と保全に向けて～

琵琶湖を切り口としたSDGs

マザーレイクゴールズ(MLGs)が紡ぐ 新たな循環と協働の形

滋賀県理事(琵琶湖政策・MLGs推進担当)

三和 伸彦

マザーレイクゴールズ(MLGs)への長い道

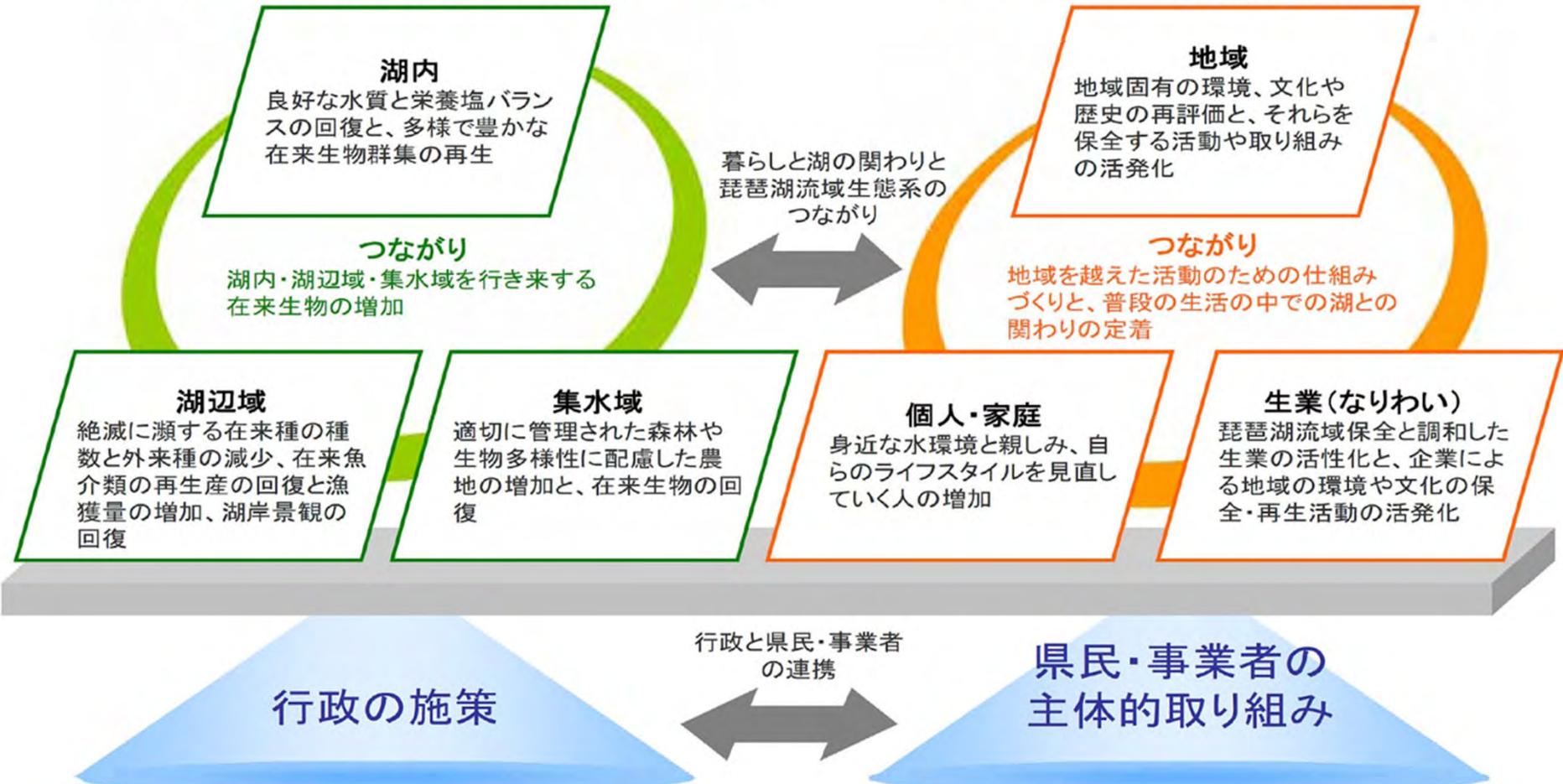
- ✓石けん運動とその後の展開(1978~1988)
- ✓マザーレイク21計画(第2期)※の新たな方向性
「暮らしと湖の関わりの再生」(2011)
※2018.12 流域水循環計画に認定
- ✓SDGs、パリ協定採択(2015)
- ✓第5次滋賀県環境総合計画の策定(2019)
- ✓マザーレイク21計画の終了(2021)
- ✓琵琶湖保全再生計画(第2期)※の策定(2021)
※2021.7 流域水循環計画に認定
- ✓マザーレイクゴールズ(MLGs)の策定(2021)



琵琶湖流域の総合保全

琵琶湖流域生態系の保全・再生

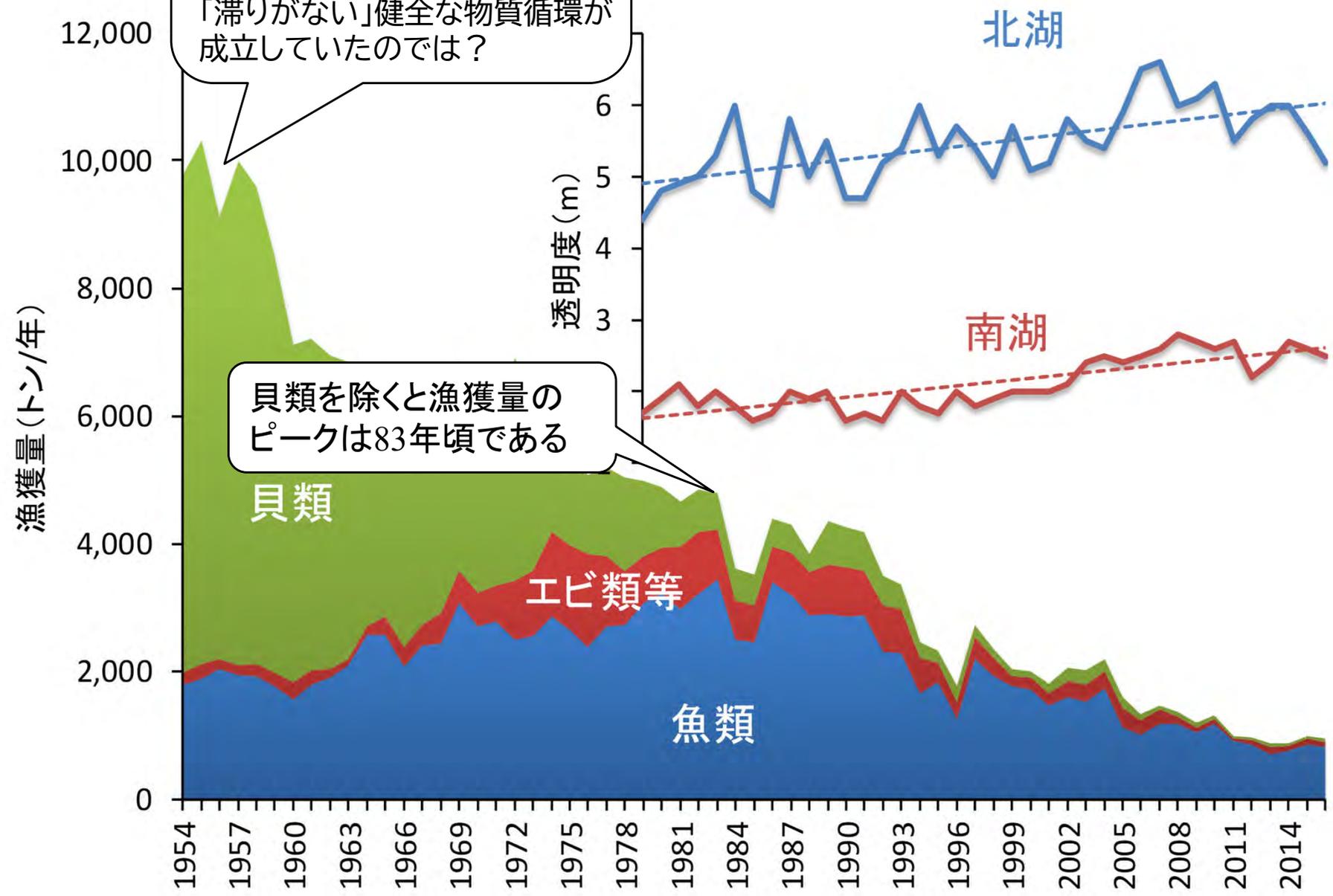
暮らしと湖の関わりの再生



2011.10 マザーレイク21計画(第2期改定版)より

○ 琵琶湖の水はきれいになったが漁獲量は減少

50年代は今より水は清澄だったが魚介類のにぎわいがあった
↓
「過不足がない」「偏りがない」
「滞りがない」健全な物質循環が
成立していたのでは？

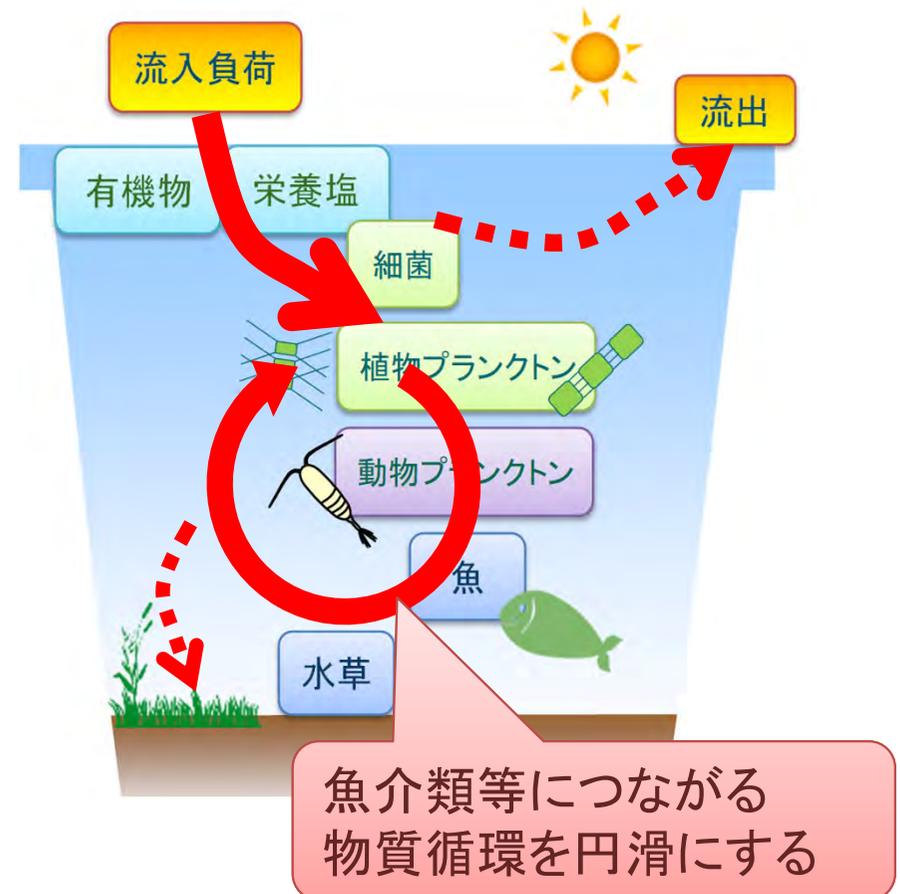


「人の健康」と「琵琶湖の健康」

人の健康



琵琶湖の健康



○ 水質という「ストック指標」に加えて循環の視点から「フロー指標」で評価することが必要

第5次滋賀県環境総合計画の目標 ～環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築～



○ SDGsのウェディングケーキモデルに動的な要素を加味して再構成

MLGsの素案をつくる上で参考とした資料 1

1. びわコミ会議で作られてきた「びわ湖との約束」

2. 2020年7~12月に実施した「#びわことのやくそく」キャンペーン



SNSで、集まろう！ 集おうよ！

#びわことのやくそく

ハッシュタグキャンペーン 2020.12.31まで

※WEB / A・M・メール・FAX・郵送でも参加できます

あなたとびわ湖との「約束」が、暮らしとびわ湖の未来をつくる！

「びわ湖のやくそく」大募集!!
参加方法は裏面を見てね♪

詳しくは…

びわ湖との約束 検索

https://biwako-yakusoku.net

企画・運営 マザーライフフォーラム運営委員会 協賛

素案で示した10のゴール(案)

1

清らかな水を
次世代に

2

豊かな魚介類を
取り戻そう

3

多様な
生きものを
守ろう

4

湖岸も湖底も
美しく

5

恵み豊かな
水源の森を
増やそう

6

森川里湖の
つながりを
健全に

7

自然災害や
気候変動に
適応する
暮らしに

8

環境を
守り活かす
生業の発展

9

びわ湖を学び、
楽しみ、
愛する人を
増やそう

10

つながりあって
目標を
達成しよう

MLGsアジェンダの13のゴール

1
清らかさを感じる水に



2
豊かな魚介類を取り戻そう



3
多様な生き物を守ろう



4
水辺も湖底も美しく



5
恵み豊かな水源の森を守ろう



6
森川里湖海のつながりを健全に



7
びわ湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう



8
気候変動や自然災害に強い暮らしに



9
生業・産業に地域の資源を活かそう



10
地元も流域も学びの場に



11
びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう



12
水とつながる祈りと暮らしを次世代に



13
つながりあって目標を達成しよう



○ 素案から

追加

修正

“琵琶湖は暮らしを映し出す鏡”

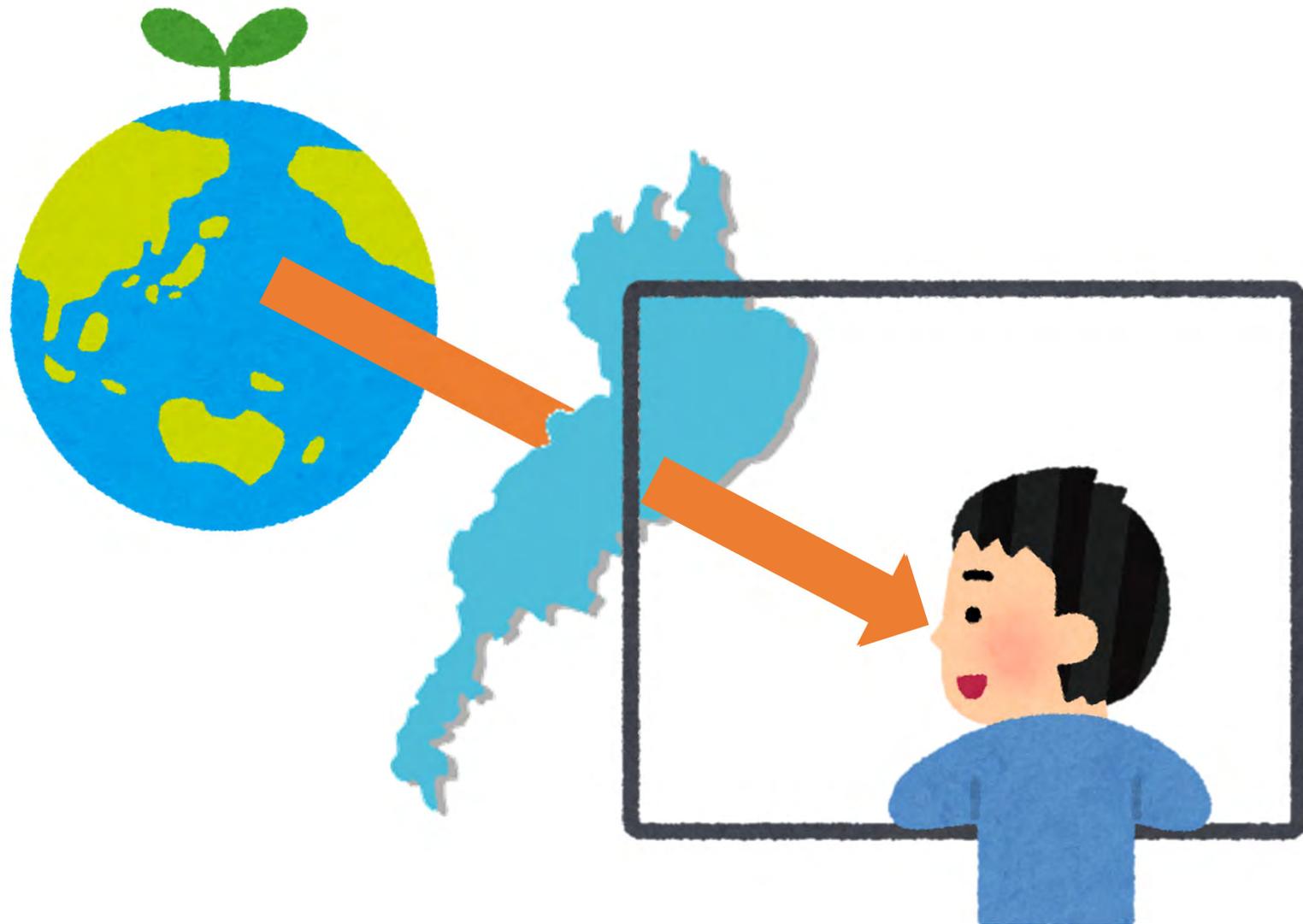
鏡を磨いても
映っているものは
美しくならない

琵琶湖の環境を守ること
＝自分たちの生活を見直し整えること



- ✓MLGsは「自分たちの生活を見直そう」という呼びかけ
- ✓琵琶湖・滋賀は、人の暮らしと自然環境の関係を考え、持続可能な社会に向けて取組を進めるために最適なフィールド

“琵琶湖は地球環境を見通す窓”



✓全層循環の未完了などを通じて、琵琶湖は地球規模の環境の変化を私たちに教えてくれる

MLGsとは？(説明のための6つの切り口)

①琵琶湖版の「パリ協定」

②トップダウン(SDGs)ではなくボトムアップ(MLGs)の目標

③琵琶湖をきっかけとしたコミュニケーションツール

④PDCAサイクルとは異なるゴールへのアプローチ

⑤コンセプトは「多様な活動の生態系」

⑥琵琶湖版の「SDGs」

MLGsとは？(6つの切り口)

①琵琶湖版の「パリ協定」

- ・あらゆる人が自らの意思で参画できる仕組み
- ・参画する主体が自ら決定する貢献(NDC/びわ湖との約束)に基づく自主的自立的な取組
- ・専門家の科学的な評価に基づく不断の見直し(IPCC/学術フォーラム)

MLGsとは？(説明のための6つの切り口)

②トップダウン(SDGs)ではなく、 ボトムアップ(MLGs)の目標

- ・国連で採択され、実感しにくいSDGsは「自分ごと化」が課題
- ・MLGsは、そもそも「びわ湖との約束」という「自分ごと」をゴールにしたもの

マザーレイクフォーラムびわコミ会議(2012~2021) 参加者全員が最後にこの一年の「びわ湖との約束」 (コミットメント)を掲げる

※この積み重ねが後にMLGsにつながるとは、この時知る由もない。
→成果につながるのは必ずしもバックキャストिंगの取組とは限らない。



MLGsとは？(説明のための6つの切り口)

③琵琶湖をきっかけとした コミュニケーションツール

- ・多様な価値観を持つ人と琵琶湖・持続可能な社会について話し合うきっかけ
- ・MLGsの評価報告書「シン・びわ湖なう」と合わせて科学的で前向きな議論を期待

「みんなのBIWAKO会議」は年に一度みんなが集う場（今年度は9/24に開催）



総合評価

MLGsで掲げた13のゴールについて、「状態」と「傾向」の2つの側面から、それぞれの分野に精通した専門家により評価を行いました。その結果をまとめたものが次ページの図表です。

状態については、「よい」は8%、「悪くはない」が最も多く54%、「悪い」が31%でした。傾向については、「改善している」が最も多く38%、「変わらない」が8%、「悪化している」が23%でした。総じて見れば、水質や温室効果ガスの排出など、対策が効果として現れやすいゴールについては、状態も傾向も比較的评价が高くなっています。一方で、生物多様性や地域文化など、対策と効果の因果関係が複雑で効果が出るまで長い時間を要するゴールについては、評価が低い傾向にあります。より多くのゴールの達成を目指すためには、これまで手を付けにくかった課題にこそ目を向けることが必要です。

一方で、13のゴールはそれぞれ複雑に絡み合い、影響しあう関係にあります。各ゴールの達成に向けた取組がその他のゴール達成に貢献することもあれば、逆に後退させてしまうこともあります。例えば、水質がよくなる(ゴール1)と湖水浴など琵琶湖で楽しむ人が増えます(ゴール11)が、一方で水がきれいになりすぎると魚介類の餌資源が減少したり(ゴール2, 3)光環境がよくなって水草が生えやすくなったりする恐れがあります(ゴール4)。琵琶湖で楽しむ人が増えれば(ゴール11)地元産品の消費促進(ゴール2, 9)につながりますが、近隣で散在ゴミが増えたり(ゴール4)地域の暮らしに影響が出たりする(ゴール12)場合もあります。これらの複雑な関係に配慮しつつ、全てのゴールの達成に近づけていくためには、何を握りどころにして取組を進めればよいのでしょうか。

ゴール間の直接的な関係だけでなく、その背後にある共通の要因に思いを巡らせるとヒントが見えてきます。例えば、森の状態を健全に保つことが(ゴール5)河川への適度な砂利の供給(ゴール6)を通じて魚類の生息環境を改善する(ゴール2)というように、「水や物質の循環」によって対策の効果が様々に波及していきます。地域の資源を活かした生業があることで(ゴール9)地域コミュニティや文化的景観が維持され(ゴール12)、森や農地、湖も健全に保たれ(ゴール1, 2, 3, 5)、温室効果ガスの排出も抑えられていた(ゴール7)というように、「地域資源の循環」が自然環境と社会を育んできました。キーワードは「健全な循環」です。ゴール同士の関係に着目しすぎると「どちらのゴールを優先するか」という選択の問題に行き着いてしまいがちですが、双方に共通する「循環の不健全さ」という根本原因を解決することで、どちらのゴールも達成に近づいていきます。環境と経済・社会活動をつなぐ循環を、地域・流域単位で構築していくことが、ゴール全体の調和と改善にもつながります。

以上のように考えれば、これまで行ってきた各ゴールの対策や活動について、「健全な循環」という視点から再評価することが必要です。さらに、13のゴールのうち特に「森川里湖海のつながりを健全に」や「9 生業・産業に地域の資源を活かそう」については「悪くはない」という状態で妥協せずに「よい」という評価になるように努力を惜しまないこと、そのために学び(ゴール10)や楽しみ(ゴール11)、関係者間のつながり(ゴール13)が広がり深まる機会を創出していただくことが強く求められます。皆さんも、地元の産品を積極的に選ぶ、地域活動に参加するなど、できることから始めてみましょう。

	状態				傾向			
	よい	悪くはない	悪い	評価できない	改善している	変わらない	悪化している	評価できない
1 清らかさを感じる水に					↑			
2 豊かな魚介類を取り戻そう								～
3 多様な生き物を守ろう							↓	
4 水辺も湖底も美しく					↑			
5 恵み豊かな水源の森を守ろう								～
6 森川里湖海のつながりを健全に					↑			
7 びわ湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう					↑			
8 気候変動や自然災害に強い暮らしに								～
9 生業・産業に地域の資源を活かそう					↑			
10 地元も流域も学びの場に							↓	
11 びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう						→		
12 水とつながる折りと暮らしを次世代に							↓	
13 つながりあって目標を達成しよう								～

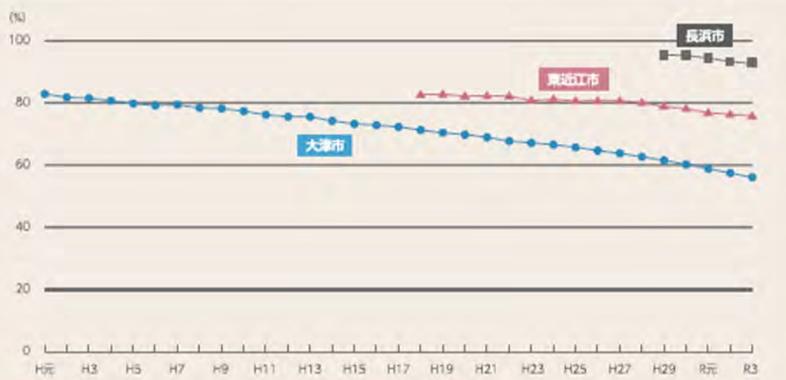
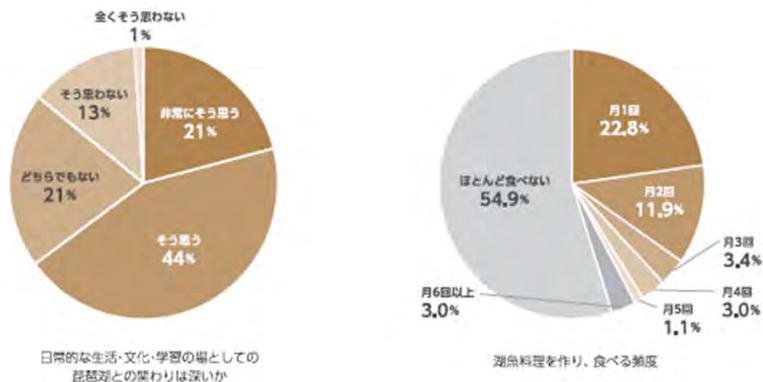


Goal 12

水とつながる祈りと暮らしを次世代に

令和3年度に実施した滋賀県政モニターアンケートでは、日常生活・文化・学習の場として、人々と琵琶湖との関わりは深いと考える人が約65%いました。一方で、湖魚料理を作り、食べる機会がほとんどない人も55%おり、飲料水以外で琵琶湖の恵みを直接感じられる機会は多くない可能性があります。

自治会などの地縁コミュニティは、神社や寺院との民間信仰的なつながりや、お祭りというイベントなどを通して、地域文化を醸成する役割を果たしてきました。近年、新興住宅地の増加だけでなく、地域から生業がなくなり、さらに地域内で協力して行う行事（農作業、水防、清掃活動など）の必要性も薄れたことで、自治会に加入する世帯の割合が減少する傾向が見られています。地域文化の継続のみならず、災害時の相互扶助のあり方や、高齢者の見守り、核家族の孤立化などにも影響を与える恐れがあり、今の時代にあった方法で地縁コミュニティを維持する手段を検討する必要があります。



※各市提供データ。自治会加入数の算出方法は自治体によって異なるため、加入率の差異がそのまま自治体間の差異を示すとは限らない。

評価

12
水とつながる
祈りと暮らしを次世代に

状態:悪い
目標値には遠く、悪い状態

傾向:悪化している
経年的に悪化傾向にある

滋賀県の重要文化的景観

本県には琵琶湖と水が織りなす地域特有の景観が現在まで多く残されており、そこで暮らしてきた人々の生活や生業、信仰のあり方などの姿を今に伝え続けています。このような景観は「文化的景観」と呼ばれる文化財として保護が図られています。

県は平成20年度から3か年にわたり、県内の文化的景観の所在調査を行い、「琵琶湖と水が織りなす文化的景観所在確認調査報告書」（平成23年3月）を作成し、滋賀ならではの文化的景観を保存・活用する取り組みを進めています。

文化庁では各地の文化的景観の中で特に重要なものを「重要文化的景観」に選定します。県内には、全国での選定第1号となった「近江八幡の水辺」をはじめ、「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」、「高島市針江・霜降の水辺景観」、「東草野の山村景観」、「菅浦の湖岸集落景観」、「大溝の水辺景観」、「伊庭内湖の農村景観」（選定順）が選定され、琵琶湖と水との関わりの中で育まれてきた滋賀ならではの文化的景観が全国的に高く評価されています。

県内の重要文化的景観では、重要な構成要素の保存修理や地域住民による景観保全などの取組が進められています。



高島市針江大川での築上げ作業



東近江市伊庭内湖の雑刈り作業

総評

地縁の地域コミュニティを考える時、滋賀県の特徴的な自然環境と文化形成のあり方が自然と浮かびあがってきます。滋賀県は、周囲を山に囲まれ、山中に降った雨水はやがて湧水として湧き出て、そのほとんどが琵琶湖に注ぎ込みます。古代から近代に至るまでは、生物にとってなくてはならない命の水に関わる信仰が各地で展開され、共有する水の範囲に神社や寺院を核とした一つの小さなコミュニティが形成されてきました。水の守神である龍（竜）や、大蛇、弁才天、十一面観音菩薩など、様々な神仏が人々を繋いできました。その小さなコミュニティでは、現在県や市町村行政が担当している治安維持、防災、水道、ゴミ処理、交通、教育、文化、医療、福祉などあらゆる分野に関わることを、集落の神社や寺院、有力者である庄屋などが担ってきました。そして、雨乞いや、五穀豊穡、風水害や疫病などの禍除けなどを神仏に祈る祭事を行うことで、人々を繋ぎ、集落内における相互扶助の仕組みを築いてきました。

近代を迎えて、経済活動が活発化し、都市に限らず地方においても急速にインフラ整備が行われ、合理的で便利な暮らしが実現されました。しかし、同時にかつて必要とされた社寺や祭りの役割が失われ、地縁による地域コミュニティは徐々に分断されていきました。近隣に血縁者が存在しない核家族が増え、高齢者や子どもたちの孤立化が進み、心のケアの問題も含め教育、福祉等の諸問題につながっています。また、災害時の助け合いなど、近年の気候変動による災害の多発や、新型コロナウイルス

感染症のような災害などに関する不安も大きくなっています。滋賀県においても同じ現象が起こっているわけですが、多少の敷いは、他県に比べ近代化がゆっくり進んだこともあるのか、まだ、近世から続いている祭りや行事が多く受け継がれています。特に大阪や京都から離れた県内北部や湖東、湖西地域は顕著です。神仏に祈りを捧げる行事が盛んな地域は、自治会（同人会）の加入率が高いという傾向があります。一方、県南部は、京阪神のベッドタウンとなっており、新興住宅が増え、古くからの風習は残っているものの、長浜市と比べると大津市の自治会加入率は極端に低くなっています。

未来社会を考える時、自治会加入率をあげることが目標ではなく、地縁のコミュニティをどう築いていくかということが大切です。その手段として、文化的景観の維持を地域ぐるみで取り組むことが例としてあげられるかもしれません。その際、古来、文化的景観は地域の資源を生業に活かすことで維持されてきたという側面も忘れてはなりません。自分が暮らす地域をありのまま見つめ、琵琶湖とともに暮らす幸せを自覚し、琵琶湖の恵みに感謝し、地域にある祭りや神仏をよりどころとし、地域の人々との繋がりを大切に、地域の人々のために活動することができれば、心身ともに健康で幸せな地域社会に暮らすことが実現すると考えます。

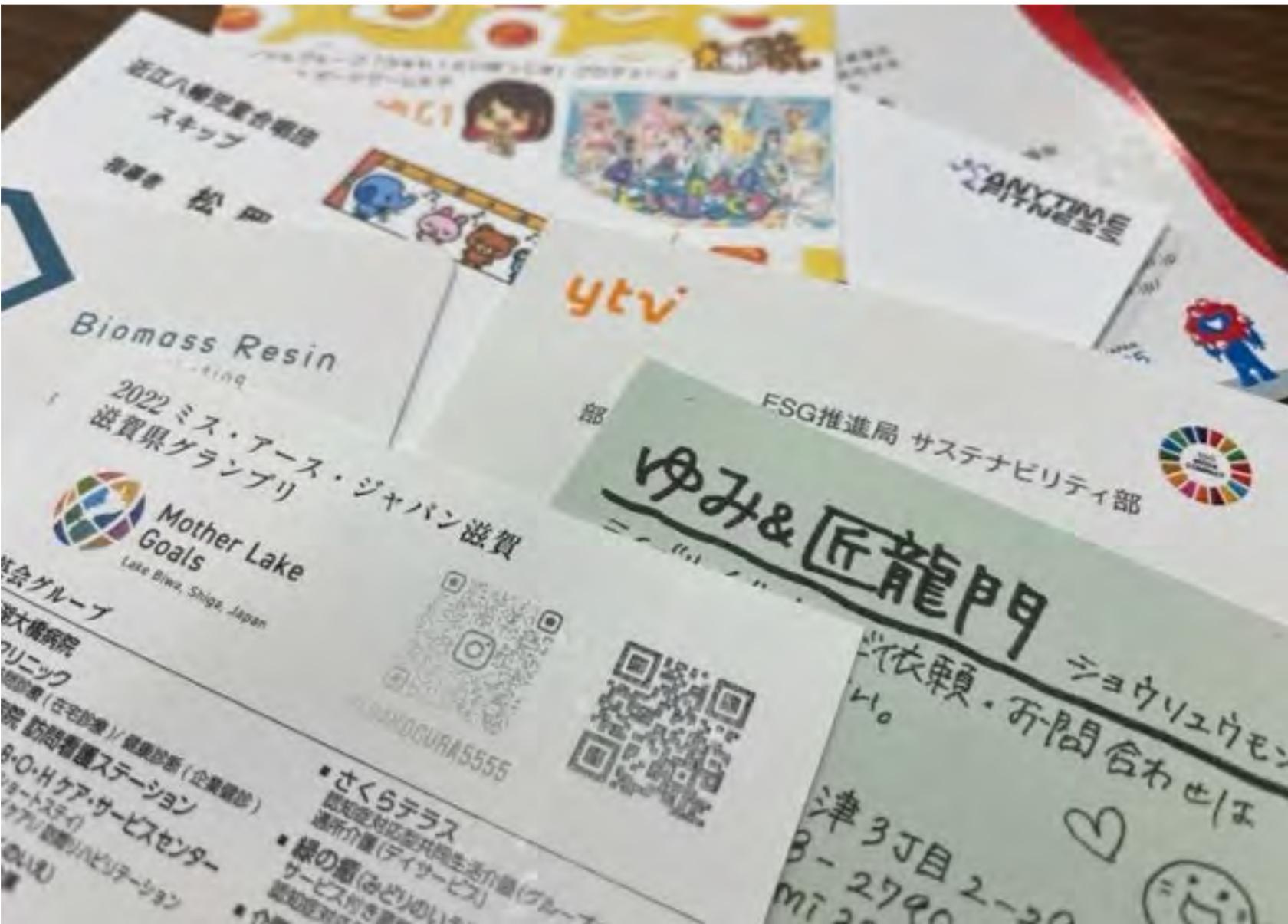
学術フォーラム 担当委員：加藤 賢治

④PDCAサイクルとは異なるゴールへのアプローチ

- ・「成果を定義して最短距離で行く」、「目標達成のために人を手段化する」ことは求めない
- ・一人ひとりの自主的、自発的な活動とともに、「予測不能な展開」を楽しむ

広報大使、分野別大使、学生ボランティア、アート、体操、音楽、ボードゲーム、アイドル、水族館、健康しが、修学旅行、読売テレビ、プロスポーツ、フィットネスクラブ、ミスコンテスト、ダイバー、農業、バイオプラスチック、ベトナム、関西広域連合、環境省、関西万博、LEXUS

MLGsを通じた新たな出会い



MLGsとは？(6つの切り口)

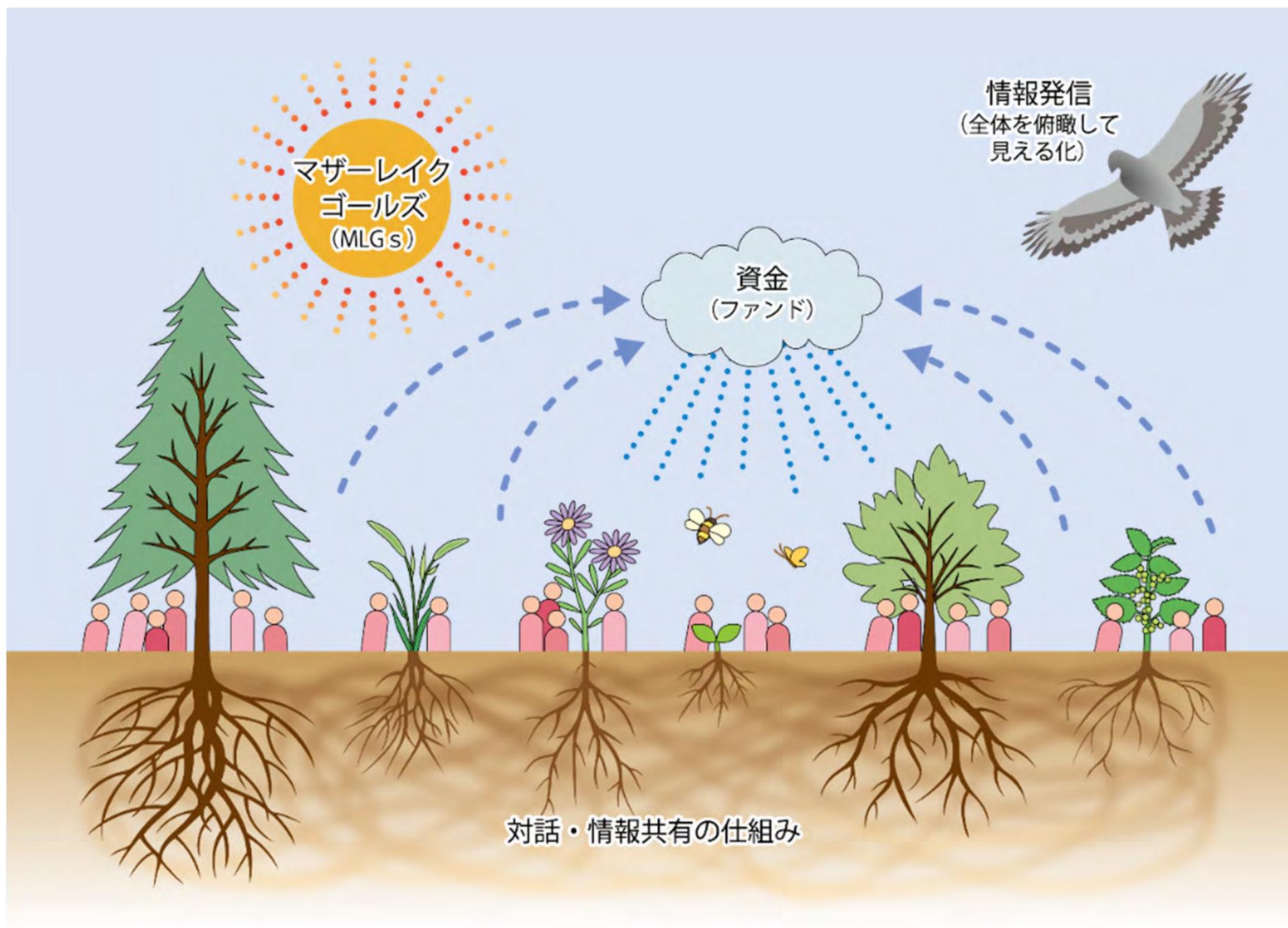
⑤コンセプトは「多様な活動の生態系」

- ・MLGsは「太陽」、私たちは日の射す方に向かって思い思いに枝や葉を伸ばす「植物」

- ・「行政施策への市民参画」と「市民活動への行政参画」

- ・生態系は多様で「何でもあり」
環境保全とは一見関係のなさそうなものが
思わぬ展開・生長・貢献を見せることがある

多様な活動の生態系



⑥琵琶湖版のSDGs

- ・「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会の実現を目指す目標(ゴール)
- ・SDGsは検討過程で後から登場した世界目標
- ・あえて見栄えを寄せ、「関係性」と「違い」を説明
- ・県外、世界を視野に入れた広報戦略

MLGsとは？

マザーレイクゴールズ（MLGs）とは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会の実現を目指す目標（ゴール）であり、「琵琶湖版のSDGs」



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

- ✓ 令和3年7月1日（「びわ湖の日」40周年記念日）に策定
- ✓ 琵琶湖を中央に配し、周囲には円形の中に13のゴールカラーを配置
- ✓ 円形は琵琶湖を取り巻く湖国・滋賀、そして地球を表現している
- ✓ 「琵琶湖は暮らしを映す鏡」「琵琶湖は地球環境を見通す窓」であることを表し、琵琶湖・滋賀から世界を変えるための目標であることを示している。

SDGsとの関係性

マザーレイクゴールズ（MLGs）は、
世界規模の目標（SDGs）と私たちの取組の間に置くゴール

琵琶湖を通じてSDGsをアクションまで落とし込む



SDGs



MLGs



私たちの取組

琵琶湖を通じて自分たちの活動がSDGsにつながっていることを発見する

- ✓ SDGsの視点から見ると、琵琶湖を通じてSDGsをアクションまで落とし込む仕組みがMLGsであり、MLGsの取組はSDGsの達成に貢献するもの。
- ✓ マザーレイクゴールズ(MLGs)からの視点で見ると、琵琶湖を通じて、石けん運動以来40年にわたる県民等多様な主体による活動がSDGsにつながっていることを発見する仕組み。

ゴール①

清らかさを感じる水に



アオコや赤潮などのプランクトンの異常発生が抑制され、飲料水としても問題がなく、思わず触れたくなるような清らかな水が維持される

2

豊かな魚介類を
取り戻そう



ゴール②

豊かな魚介類を取り戻そう

在来魚介類の生息環境が改善し、資源量・漁獲量が持続可能な形で増加するとともに、人々が湖魚料理を日常的に楽しむ

3

多様な生き物を
守ろう



ゴール③

多様な生きものを守ろう

生物多様性や生態系のバランスを取り戻す取組が拡大し、野生生物の生息状況が改善するとともに、自然の恵みを実感する人が増加する

写真：琵琶湖博物館 金尾滋史

4

水辺も湖底も
美しく



ゴール④

水辺も湖底も美しく

川や湖にごみがなく、砂浜や水生植物などが適切に維持・管理され、誰もが美しいと感じられる水辺景観が守られる

5

恵み豊かな
水源の森を守ろう



ゴール⑤

恵み豊かな水源の森を 守ろう

水源涵養や生態系保全、木材生産、レクリエーションなどの多面的機能が持続的に発揮される森林づくりが進み、人々が地元の森林の恵みを持続的に享受する



ゴール⑥

森川里湖海のつながりを健全に

森から湖、海に至る水や物質のつながりが健全に保たれ、湖と川、内湖、田んぼなどを行き来する生き物が増加する

7

びわ湖のためにも
温室効果ガスの
排出を減らそう



ゴール⑦

びわ湖のためにも、 温室効果ガスの排出を減らそう

日常生活や事業活動から排出される温室効果ガスを減らす取組が広がり、琵琶湖の全層循環未完了などの異変の進行が抑えられる

8

気候変動や自然災害に
強い暮らしに



ゴール⑧

気候変動や自然災害に 強い暮らしに

豪雨や渇水、温暖化などの影響を把握・予測し、そうした事態が起きても大きな被害を受けない暮らしへの転換が進む



ゴール⑨ 生業・産業に 地域の資源を活かそう

地域の自然の恵みを活かした商品や製品、サービスが積極的に選ばれ、地域内における経済循環が活性化し、ひいては環境が持続的に守られる

ゴール⑩

地元も流域も学びの場に

10

地元も流域も
学びの場に



琵琶湖や流域、自分が生活する地域を環境学習のフィールドとして体験・実践する機会が豊富に提供され、関心を行動に結びつけられる人が増加する

11

びわ湖を楽しみ
愛する人を増やそう



ゴール⑪

びわ湖を楽しみ、 愛する人を増やそう

レジャーやエコツーリズムなどを通じて自然を楽しむ
様々な機会が増え、琵琶湖への愛着が育まれる

写真：滋賀県「こころに残る滋賀の風景」

12

水とつながる
祈りと暮らしを次世代に



ゴール⑫

水とつながる祈りと暮らしを 次世代に

水を敬い、水を巧みに生活の中に取り込む文化や、
水が育む生業や食文化が、将来世代へと着実に継
承される

ゴール⑬

つながりあって目標を達成しよう

13

つながりあって
目標を達成しよう



年代や性別、所属、経験、価値観などが異なる人同士、また異なる地域に住まう人同士がつながり、琵琶湖や流域の現状、これからについて対話を積み重ね、その成果を共有できる機会が十分に提供される

MLGs体操の「予測不能な展開」



元フリースタイルスキー・モーグル日本代表

伊藤みきさん プロデュース

MLGs 体操プロジェクト



Mother Lake
Goals

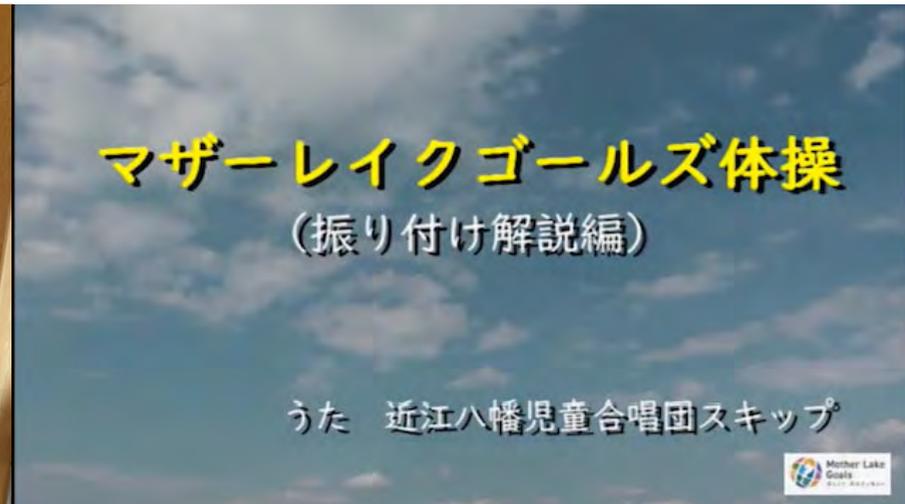
マザーレイクゴールズを「からだ」で表現！

「MLGs体操プロジェクト」





MLGs体操の「予測不能な展開」



MLGs体操の「予測不能な展開」

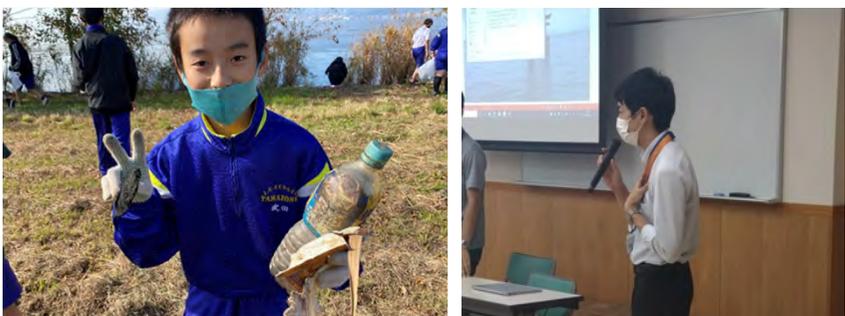


【MLGs体操振り付け動画へのリンク】

Special thanks: 伊藤みきさん、鈴村英理子さん、エニタイムフィットネスの皆さん、ミスアース滋賀の皆さん、近江八幡児童合唱団スキップの皆さん and more...

マザーレイクゴールズ(MLGs)の予測不能な広がり

○ 環境学習（小・中・高）



MLGsをテーマとした環境学習を実施

【令和3年度】

- 9/20 同志社中学校1～3年生（京都府） オンライン
- 9/27 東近江市立玉園中学校1年生
- 9/28, 29 守山市立守山北中学校1年生
- 10/6 立命館慶祥中学校2年生（北海道） オンライン
- 11/12 東近江市立五箇荘小学校4年生
- 11/15 県立守山北高校3年生

【令和4年度】

- 6/27 興南中学校2年生（沖縄県） オンライン
- 6/28 永源寺中学校（全校）

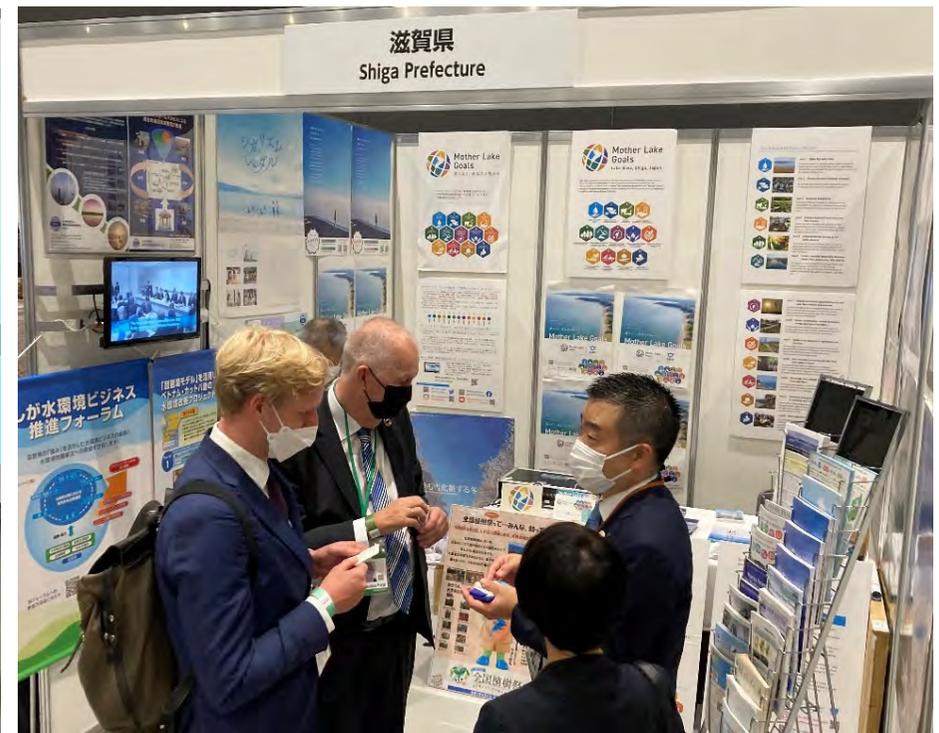
マザーレイクゴールズ(MLGs)の予測不能な広がり

○ 世界へ向けて：第4回アジア・太平洋水サミット

- ✓ 令和4年4月23日・24日に熊本市で開催された第4回アジア・太平洋水サミットにおいて三日月知事より、MLGsや琵琶湖の総合保全の取組について発表
- ✓ 海外の政府関係者などからも大きな反響



【「水と環境」分科会での発表】



【現地展示会での発信】

マザーレイクゴールズ(MLGs)の予測不能な広がり

○ イベント等への参加、様々な媒体とのコラボ



県内外のイベント等に参加・出展

- 8/27, 28 24時間テレビ：読売テレビ 本社イベント（大阪市）
- 9/14 たまゆら SDGs ユニフォームからはじめる！サステナブル展（京都市）
- 9/17, 18 イナズマロックフェス 2022（草津市）



様々な媒体とのコラボ

- MLGs nanaco 発行（2021.6）
- LEXUS 2023カレンダーに掲載
- 月刊誌 FRaU(フラウ) 2023.1月号に掲載



マザーレイクゴールズ (MLGs) の発信

- ✓ マザーレイクゴールズの最新の取組やワークショップの情報などを随時更新中

公式WEBサイト

マザーレイクゴールズ公式サイト「MLGs WEB」

<https://mlgs.shiga.jp/>

MLGs WEB

検索



公式SNS



@MotherLakeGoals



fb.me/motherlakegoals



@motherlakegoals



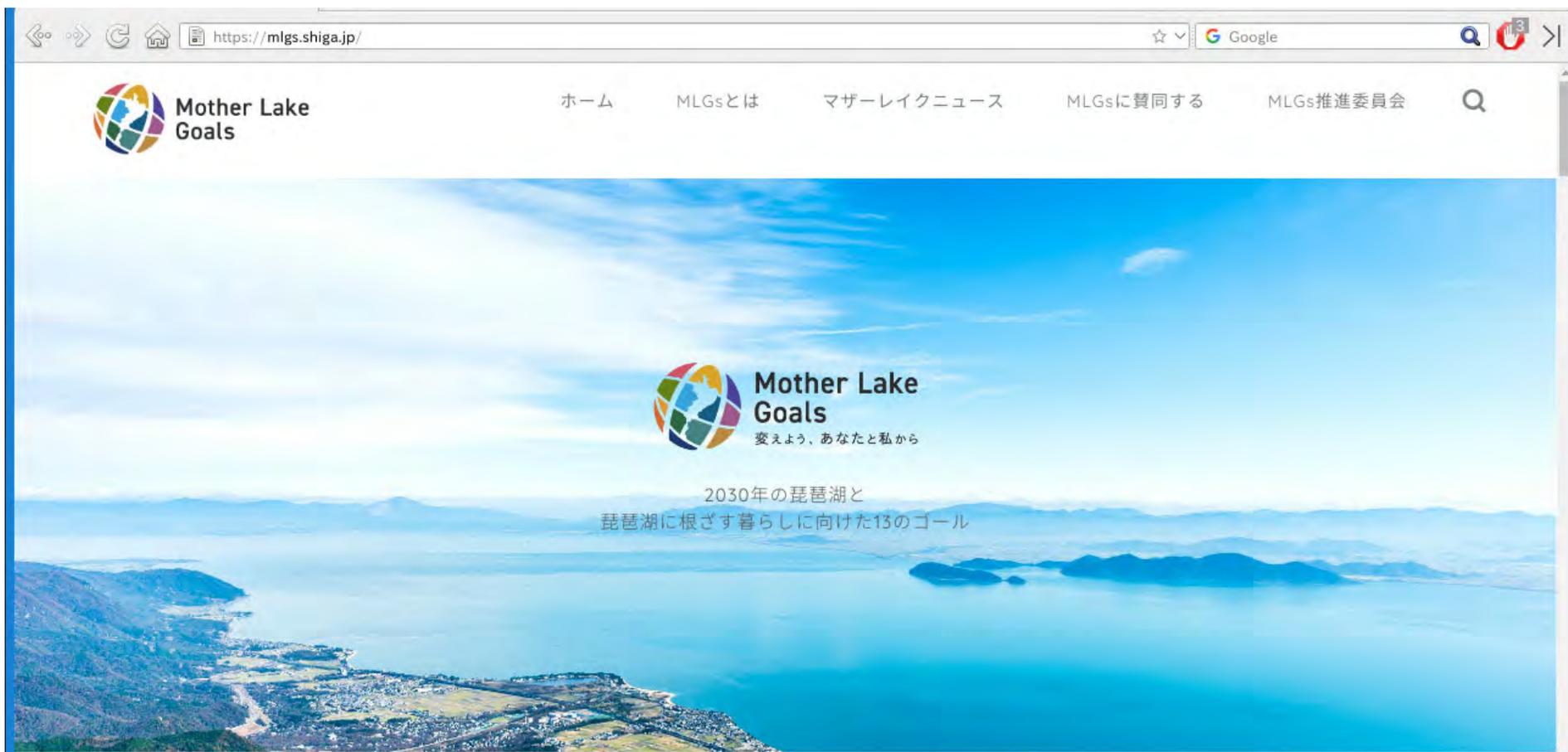
<https://bit.ly/3LJ6dSm>



facebook



YouTube





Mother Lake Goals

Thank you...